

Alert 19号

反天皇制運動

[通巻 401 号]

2018 年
1 月 10 日発行

第X期・反天皇制運動連絡会

今月のAlert

● 近代天皇制の歴史の内実を批判し「紀元節」を撃つ闘いを組み立てよう——*2
反天ジャーナル ● きょうこくこのりこ、闘病熊、宗像充*3

状況批評 ● 新春大放談! あにまる談議「どうなる!? 次期天皇制」——*4

ネットワーク ● 一人でも多く、辺野古に行こう!——中村利也*7

書評 ● 『働く、働かない、働けば』(『2018 BROKEN JAPAN』を思い知るために——たけもりまさ*8

太田昌国のみたび夢は夜ひらく(92)

● 願わくば子供は愚鈍に生まれかし。さすれば宰相の誉を得ん——太田昌国*9

マスコミかけの天皇制(19)

● 「皇位の安定継承」が前提!?——〈壊憲天皇明仁〉その17——天野恵一*10

野次馬日誌*11 集会の真相*14 反天日誌*16 集会情報*16

一二月二三日の集会で千本秀樹氏が一言述べて、水平社創立大会宣言を思い出させてくれた。氏がある大学で学生にこの宣言を聞かせ、「エタであることを誇る」という文言について問うたところ、一学生が「それはエタであることを大事にすることですね」と応じたそうだ。自分で自分を否定することの拒否を見るという意味だろうが、氏はこの学生の言いたいことはわかった上で、宣言が、人間をいたわるがごとき運動が運動を墮落させる、と言っていることに注意を喚起した。

千本氏の指摘はたまたまその前の精神障害者運動をやっているという人の発言を受けた形になった。この人は、付加価値を生まないとされる者が無価値とされ、自分たちが社会常識に一体化せよと一方的に要求される状況を言い、こういうことが天皇制とどういう関係にあるかを問うた。私はこう思った。そういう状況に対して明仁天皇は必ず、あなた方のことはわかる、それに心を痛める、と言うだろう。そしてそれに反感を覚える人は少ないだろう。しかし天皇の言は精神障害者の状況への社会認識を「気の毒だ」という感情で統一させることになるだろう。それは正しい方向か? この発言者は、精神障害者が自分たちへの差別に自分たちで立ち向かう運動についても述べた。それを通じて社会を変えるということだろう。そこで私は思い出した。水平社宣言が自分たちを誇るというのは、被差別部落民があわれまれることに甘んじず、差別と自力で戦った歴史を誇り、それを受けつぐ自分たちを誇ったのであり、その行動によってわれわれは人の世に熱と光をもたらすだろう、と声高く叫んだのであったことを。(信天翁)



250 円

● 定期購読をお願いします (送料共年間 4000 円)

● 郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス

東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス

TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://hanten-2.blogspot.jp/> mail: hanten@ten-no.net



今月の
Alert

近代天皇制の歴史の内実を批判し 「紀元節」を撃つ闘いを組み立てよう

二〇一五年一二月の日韓政府による「慰安婦問題」「合意」が、とうてい歴史問題の「不可逆・最終的」な決着ではありえないということは、その時点から多くの批判とともに語られてきた。そしてそれにもかかわらず、安倍政権の意をくむ右派勢力は、この「合意」をまさに「錦の御旗」と掲げながら差別排外主義の轟音をかき立ててきた。しかし、それから二年を経てこの検証結果が韓国側から発表され、非公開とされてきた秘密合意が存在しており、それが当事者の尊厳を踏みにじるもので、とうてい歴史問題の「決着」とは言い得ないものであるということが明るみに引き出された。

これにより、大日本帝国から戦後の日本国家を通じて、植民地責任、侵略戦争責任が、いまなお未決のままであることがあらためて直視させられたのだ。嘘につつまれた「合意」をいくら形式的に保持しようとしても、この歴史問題は、国家の心臓に深く刺さったものであり、この問題をめぐる言説や国家間の交渉の実態は、双方の国家とりわけ日本国家の腐敗状況をそのまま示すものとしてあるのだ。天皇がどれほど「慰霊」を重ね、「おことば」をどれほど繰り出しても、それが空疎なものでしかないということが、このような事実が示されるたびに露呈されていく。

この二〇一八年を、政府は「明治一五〇年」

として祝うのだという。頻発する政治テロと内戦を経て、天皇の神権を核とする天皇制明治政府が成立した。欧米の帝国主義を制度としてまといながら、近隣の民族への侵略を重ねることで国内の近代化をすすめ、東アジアから世界へと軍勢力で影響力を高めていった。侵略戦争の深化とともに天皇の大権が神格化されて臣民の精神を統合する存在となっており、天皇の勅語や図像が国家における最重要なものとして強要された。内戦の死者を祀ることに伴った靖国神社は、侵略戦争の死者を祀るまさに「戦争神社」となることで完成した。「明治一五〇年」を祝うということは、これらの事実を現在の国際環境や社会状況の中で、「正」のものとして位置づけることであり、歴史修正主義にさらなる上塗りを重ねることである。

この事態のなかで、憲法改悪の具体化が安倍政権から堂々と打ち出されてきている。さらに悪いのは、これが、北朝鮮の核とミサイル開発や、米国トランプ政権の明らかな揺らぎとともに進んでいることだ。日本国家はミサイル配備や空母保持など野放図な軍拡競争にすでに足を踏み入れており、経済構造もまた全体的な衰退とともに極端に官需に傾いて脆弱の度を強め、危機的な状況が拡大している。広告宣伝がフェイクニュースとつながり、情報による支配が自己目的化しているという

悲惨なありようもまた現実だ。

昨年の「退位特例法」の制定後、天皇代替わりに向けたスケジュールが、日に日に具体化していつている。来年早々には「平成在位三〇年」が、そして来春四月末～五月には明仁退位と徳仁の即位、さらに来秋の大嘗祭という流れは確定している。徳仁の即位とともに元号の改元も予定されているから、この夏には元号も発表されることになるだろう。かつて裕仁の時代の、死のカウントダウンと社会全体の「自粛」潰けのような状況は起きないとしても、「ニッポン」賛美の異様な社会状況は着々と広がっている。天皇の代替わりという国家イベントは、その形態において少しばかりかつてとは違ったものになったとしても、私たちを取りまく社会状況に深い翳りをもたらすことはまちがいない。

しかし、私たちは嘆いているつもりはない。天皇制の問題を自分たちの切り口として選択しながら、これまでいろいろな人びととのつながりを組み立ててきたのだ。私たちは今年もまた、二月一日に、反天皇制の闘いを準備している。今回は、「代替わり」と近代天皇制一五〇年を問う！ 反「紀元節」一一・一一行動」として、歴史問題を正面から問いただしていく闘いに取り組んでいく。この日には各地でもさまざまな取り組みがなされるだろう。ともに進んでいこう。

(蝙蝠)

今年こそ五輪返上!

二〇二〇年まで、天皇代替わり、東京五輪、改憲……と考えるだけで凄まじい三年間がスタートした。うわつ。年末は横浜・寿越冬学習会で「反五輪の会」いちむらさんに明治公園や宮下公園の五輪排除について話を聞いた。神奈川でも横浜・タジアムや江ノ島が五輪会場になり、そこに住む野宿の仲間がいる。二〇二〇年サッカーW杯でも野宿の仲間が追い出された。排除は他人事ではない。昨年夏のリオでも、二月の平昌でもたくさんの人が住まいを追われた。全く誰のための五輪なのだ!

一方で復興五輪と銘打つ東京五輪だ。福島での野球、ソフトボール実施に海外からも批判の声が上がる。福島県は聖火リレーの浜通り誘致のために今年一〇月、小中学生による模擬聖火リレーを「Jビレッジ(樫葉町・広野町)」いわきまで行うと言う。原発事故で住居を追われ、自主避難する三万二千人への住宅支援が三月で打ち切られ帰還の強制が始まっている。矛盾がいたるところに染み出しているね。五輪マスコットの投票を学校で行う等子どもたちに対するオリ・パラ教育?もすごい。

SNS上の五輪批判チェックや異議申し立てを許さない監視・弾圧体制も一層強まりそう。怖い。百害ありの東京五輪、やっぱり返上!

(きょくごんのしん)

もし自分が天皇だったら……

年末は新書を買って、TVを流しながら(連続ドラマの一挙放映がまとまってあった)、TVがつまらない時は本に集中し、おもしろいと読み進まないといった、ソファにひっくりかえった闘病人のライフスタイルのんびり。新書だと軽くて読みやすいのだ。その中の一冊が「日本人と象徴天皇」(NHKSスペシャル)取材班、新潮新書。象徴天皇(二代)の「平和主義」者としての積極的活躍を調査し直して整理した本。典型的賛美本。いまだ、読んで考えさせられることはゼロ。ただ、企画責任者の「あとがき」(「亡くなる八日前の口述筆記らしい」)は、立ち止まらせるものがあった。

それは、これまで「日本のあらゆる『忖度』による無責任体制は、天皇制に根本があるから」と考えていたが、日本の近代史を見つめて「天皇はむしろ必要」と逆転したと語ることから始まっている。なぜ、どうして、が具体的かつ論理的にどうつめられているのかと期待していたら、合理的にわりきれない「曖昧さ」が平和をつくりだした、このことが「もし自分が天皇だったらどうしたか」という視点を持つようになったら理解できた、合理をつなぐ「非合理」「曖昧」の原理が積極的意味だというのが。天皇制のマジックに取り込まれたことの告白。このNHKプロデューサーの遺言はなんとも悲しい。この時流れていたTV番組は公安警察の「国家的公」のインチキに身をよじる暴力公安刑事もの。「天皇」なんかでなく、国に疑問だらけの公安警察という「不合理」に身をやつてみる存在になってみた方がよかったんじゃないの、とだけ思った。(闘病熊)

リニア被災地

年末の二月一日、長野県大鹿村に通じる県道の斜面が崩落し、村に至る幹線道路が全面通行止めとなった。ぼくは大鹿村に住む一住民だ。崩落現場はJR東海が出資して新トンネルを掘っていた場所で、あと一メートルで掘り抜くところ、発破の振動で出口付近の崖が崩れたのだ。村民一〇〇〇人は、村外に出るのに峠越えの狭い道を、ダンプカーとすれ違いながら通らざるをえなくなった。タンクローリーが入らないためガソリン不足が生じ、観光・事業者ともども大打撃を受けた。

この道路は、大鹿村で建設が進む、リニア中央新幹線南アルプストンネルの掘削で生じる三〇〇万立方米(東京ドーム二・四個分)のズリを運び出すための大量の工事車両の通行に対して、住民生活への影響を緩和する目的でなされた道路拡幅の一環、のはずだった。JR東海は事故の因果関係を認めて二一日の村のリニア連絡協議会で謝罪したが、翌二二日には、南アルプストンネル掘削現場一カ所の発破作業を開始した。

「影響はないよ、でも子どもには危ないから来るのはよしとけて言った」というお年寄りの話を聞くにつけ、失われたのは山深いこの村で暮らす上での安心感なのだと思った。仮復旧がなされたところで、リニア工事が続く限り取り戻せないものだ。

(宗像充・大鹿の十年先を変える会)

状況批評

思想・状況・批評

新春大放談！ あにまる談義「どうなる!? 次期天皇制」

梟 久しぶりの大放談なんだけど、どこから始めようか。スペースはたくさんあるよ。

熊 これからの話ということでは、天皇みたいな上皇と新天皇と、天皇が二人いるようなもので、シンボルが二重化するわけだよ。明仁派と徳仁派みたいな二重化も起こるだろうし、宮内庁内部だって面倒な話になるぞ。

獺 それはかなり意識しているよね。たとえば、天皇誕生日をそのまま何かの祝日にするという話もあったけど、結局、権威の二重化を避けるために当分は平日に戻すと言っている。

熊 右翼が正しくも生前退位に反対していたのは、この問題だよな。

鰐 皇室祭祀の問題は？ 天皇は上皇になったら一切やらないのかしら。

熊 近代天皇制のなかで前例がないことだし、どういう風に前例をつくるかは向こうが考えることで、やらないと決めつけることはできないよ。

雀 官僚という組織は自己運動するものだから、上皇職としてあれだけ数を揃えたら、仕事がないのは困るし、何かやらせるようになるんじゃないか。鰐 本人だって何もしないわけにはいかないだろうしなあ（笑）。

熊 むしろチャリティ部門をやり続けるとかという話はある得るよな。

獺 皇室祭祀は新天皇に任せて、国内旅行とか。韓国からの招請もあるという話だし。この前も高麗神社に行ったけど、この間は「私的旅行」と称する「お出かけ」が増えているね。

梟 一応さ、天皇は退位したら「公務」はやらないって言っているよね。いわばそれが「生前退位」の前提なわけで。それで、退位したらそんなこと忘れまして、というわけにはいかないんじゃないの？

獺 だから「私的旅行」にすればいいことになるんじゃないか？

鰐 逆にそれがやりやすくなるんじゃないの？

獺 それに雀さんが心配しているお付きの者の仕事も確保できるし（笑）。

熊 建前はすべて「私的行為」だろうけど、どうしても公共性をもってしよう。

梟 メディアが報道すれば、それで「公的行為」という性格を帯びるよ。そしてメディアは報道する。

鰐 退位後、上皇夫婦が韓国訪問し、元「慰安婦」の人たちに会って慰撫するということはあるかはあり得ないのかしら……。

獺 雀熊鰐梟え、そりや無理だろう、バウバウガウガウ

雀 それは日本国家の建前と矛盾する行為にもなるし、難しいよ。

熊 そこまでやったら使い勝手は良いだろうけどなあ。

鰐 いまの政治状況で「慰安婦問題」を解決しようなんて考えているヤツはどこにもないし、上皇にそこまで独立した政治的立場もないよ。

梟 第一、それはどこからみても「私的行為」とはいえない。

鰐 でも、上皇としての使い道みたいなことは考えているわけでしょ？

雀 そりやそうだよ。いるだけ無駄って話になるし（笑）。だからいま検討中ということなのでしょう。

梟 ただ、内廷費で「私的行為」とか言っても、全部税金なんだから。そこんとこももつと問題にしたい。

熊 予算的には実際はどうなるんだ？

梟 今の天皇・皇后、皇太子一家についていた「内廷費」は、そのまま上皇・上皇后、天皇一家にスライドする感じだよ。そして、皇太子がいなくなるけど、皇嗣となる秋篠宮に皇族費が三倍つくりらしい。結局、今の皇太子と同じくらいのお金になりそうだよ。で、侍従職・東宮職だったのが、侍従職・上皇職・皇嗣職と一つ増える。上皇職はこれまでの侍従職より人数は少し減るけど、新たに皇嗣職ができるので、人件費は確実に増える。

鰐 そういえば、新天皇の一連の儀式が終わってしばらくしたら、立皇嗣礼をやるとか言っていたなあ。

熊 天皇の国家儀礼漬けが始まるんだな。

鰐 二〇一九年一月から、登極令に基づいてやるとすれば全部で三〇くらいの儀式がある。すでに「即位の礼」や、「大嘗祭」で使う衣装とか高御座のための予算だけでも一六億円以上と決まったし。

熊 福島の人たちの住宅支援が全部打ち切られたりしているなかで、すごく腹が立つ！

梟 その時決まった予算三五億円のほとんどは、そのほかには上皇、新天皇の新居や仮住まいの改修に使われるお金や人件費で、それ以外はまだこれからでしょ。いくらかかるのかっていう話だよな。

鰐 やっぱりお金の話を具体的に訴えた方がいいんじゃないの？ 納得する人も出てくるように思うのだけど。

鰐 でもさ、天皇が日本国家で果たしている役割とか、国民統合として果たしている機能とかを考えると、戦闘機一機が一〇〇億とかいうのに比べれば、安いんじゃないかという話もあるよ。

鰐 年金問題の話になれば自分たちに直接関わってくるので、いままで口をつぐんでいた人たちも声を上げたりするんじゃない。

牛 三五億円というときみんなあんまり反応しないけど、たとえば秋篠宮の眞子が毎年三〇〇万円くらいのお金を「皇族としての品位保持」として受けとっていると言えば、学生たちはすごく反応するよ。三〇〇〇万円というのは、自分たちに想像できる範囲なんだな（笑）。

鰐 そりゃそうだ。僕だって何億円なんて言われてもピンとこない（笑）。熊 ポピュリズムの時代というのは貧困問題の時代でもあるとも言われている。皇室予算の話はもう少し系統的にやった方がいいと僕も思うな。

鰐 貧困問題はさらにリアルになっていくし、経済問題を語る意味は大きい。梟 天皇制を残したい九九パーセントの人たちにとっては、宮内庁予算一七〇数億円は高くないという風に考えるのではないか、という話もあったな。

鰐 そういふ人はわりあいたくさんいると思うよ。だから、さきほどの牛さんの話が生きてくると思う。

鰐 フリーター労組の人たちが皇居前広場で、自分たちの部屋はこれくらいかな、とか言って地面に絵を描くというビデオをつくっていたけど、あの膨大な敷地との比較は面白かったな。天皇の時給計算とかね。

熊 そういふ直接比較は面白いな。

牛 ところで、天皇の私有財産はないんだっけ。戦後、土地や建物はすべて国有化されてるよね。

鰐 熊 鰐 梟 いや株が、宝物が、正倉院のお宝が、バウバウガウガウ。

牛 でも、現金は宮廷費と内廷費なんだよね。で、「大嘗祭」に宮廷費を使うのはおかしいとかボクらは言うわけだけど、本音は国費を使うのはおかしいと思ってる。今回の有識者会議で「公務」は国事行為ではないと文字に残し、一般的にはそれは私的行為となる。でも、本当にプライベートなことであれば、自分たちの財産で出すべきではないのかと。たとえば正倉院の入場料とか（笑）。あるいはカンパを集めるとか（笑）。大嘗祭もそれでまかなえ、とか。天皇制を認めない立場ならば、それくらいは言ってもいいのではないか。

熊 実際にやられたら大変だよ。膨大な金が集まるし。

牛 だから僕は、象徴天皇制と銭金の問題は絶対矛盾すると言いたいわけ。熊 「公」と「私」の関係も絶対矛盾だ。皇室財産を全部国家に返上し、私有財産は個人的に持っている金以外はない。居住地だって国有地なのにそこで神道儀式もやっている。そんなの政教分離原則違反に決まっているけど誰も問題にしない。結局「公」「私」の境もぐちゃぐちゃ。私有財産の公開義務はないわけで、お金をいくら持っているかなどわかってもない。

鰐 しかし、退位の儀式の時、「三種の神器」を手で渡すのかどうか（笑）。それをやると、天皇の意思で譲ることになるので憲法上問題があるのでは、とか議論があると書いてあったな（笑）。これもちやうの矛盾だよな。

梟 その儀式での天皇の言葉でも、退位を自分で宣言するような形式だと憲

法上マズイとかも書いてあったね。

雀 宣命の儀とかいうやつだな。天皇のうちにそれをいったらマズイと。

熊 何を今さら、だよな。バウバウガウガウキー

鰐 しかし、雅子が完全に回復しているわけではないという話で、どうするつもりなのかね。

梟 明仁・美智子天皇制といったものはこの三〇年くらいで作り上げたもので、平成以前に立ち戻ればいいという話もあり得るよね。私が天皇だという感じで徳仁が威張っていればいい、というさ。ただ私は、最終的には雅子は元気になるような気がしている。これまでできなかったやりたいことができるようになったりして、メキメキと……。

鰐 そうだな、美智子だって皇后になったばかりの時は失語症になったりして、でもサイパンで治ったんじゃないか？ (笑)

梟 生前退位問題が出てくる少し前だけど、徳仁・秋篠宮の二人三脚天皇制みたいな話も予想したりしていたけど、そのあたりはどうなるのかね。

鰐 そういう話は歴史的にはだいたい殺し合いになるんだけどね (笑)。

熊 女性週刊誌レベルで言えば、最近、紀子人氣がすごく落ちているけど。

鰐 紀子はもともとそんなに人気ないでしょ (笑)。

雀 政治的にかわいげがないからね (笑)。雅子の方はかわいそうという気持ちにさせるし。

熊 紀子は同情を引かないよな (笑)。

鰐 たしか悠仁をお茶の水に入れる時に、研究職の子どもを優先的に入れるという枠をつくってインキキで入学させたとかで、学習院じゃなくて国立なんだから、といった批判が出たんじゃないか？

鰐 そういえば秋篠宮家はみんな学習院じゃないよね。眞子・佳子はICUだ。

牛 学習院を嫌う理由があるのか？

梟 徳仁世代からはみんな海外留学やっているけど、それをやるには学習院じゃちょっと難しいというのはあるんじゃないの？

熊 愛子の登校拒否問題で、学校側の対応問題もあるんじゃないか？

梟 学習院に通う人たちの層の問題も大きいんじゃない？ 皇族が通う学校という特権階級的意識が子どもたちにも親たちにもあつて、そういう環境で愛子は雅子のことで税金の無駄遣いのないじめを受けたりしたわけですよ。そりゃ、大学のレベルといい、品の悪さといい、学習院なんか行きたくない、と思うんじゃないか？

鰐 そりゃありそうな話だなあ。嫌らしいなあ。

鰐 ほんと品がないよな (笑)。

鰐 やつぱり同情を引くようなあ (笑)。

鰐 愛子や佳子眞子が出てきたところで、女性天皇問題とかどうなのさ。一〇代、二〇代の女性はこの三人に絞られるわけで、某竹田の、元皇族の男子を捜してきてこの三人と結婚させようという話も出てきているけど。

梟 いやー、いくらなんでもそういう政略結婚的なものを許容できない社会にはなっているんじゃないの？

熊 しかし、女性天皇を認めない安倍たちにはそういう方法しかないわけだ。

鰐 天皇家のY遺伝子さえあれば、現天皇と遠い血筋でもいいわけ。

鰐 問題は精子なんですよ？ 人工授精という話になるんじゃないの？ (笑)

牛 それでも結婚するという儀式は必要なんだよなあ (笑)。

梟 人工授精の場合、誰の精子なわけ？ 明仁？ 徳仁？

熊 牛 雀 鰐 鰐 鰐 いやー、明仁は無理だけど、徳仁なら大丈夫だろうか？

梟 その精子を誰に入れるのさ！

熊 牛 雀 鰐 鰐 鰐 ……、そうだよな、愛子？ うーむ。

梟 でしょ。じゃあ、誰か連れてくるわけ？

熊 牛 雀 鰐 鰐 鰐 ……、うーむ。

牛 だから竹田路線なんだよ。政略結婚ではなく美しい恋愛結婚として世間を黙らせる。

梟 どれをとっても恐ろしい話だな。金の話よりもぞっとする。

雀 天皇制は恐ろしいですよ。

牛 熊 鰐 鰐 鰐 鰐 やつぱりやめるしかないよ。バウバウガウガウキーホ

どっぴー NETWORK

一人でも多く、辺野古に行こう！

中村利也（辺野古への基地建設を許さない実行委員会）

沖縄・辺野古では今、アメリカの国防長官をして「世界一危険だ」と言わしめた米軍海兵隊普天間飛行場の「移転」を名目に、実際には巨大な新基地建設が強引に進められている。

ジュゴンが回遊しウミガメが産卵に訪れサンゴが群生する世界的にも貴重な海が、コンクリートブロックで押し潰され、碎石、土砂によって汚染されている。昨年の総選挙を始め、何度もの選挙で「新基地はいらない」という沖縄の揺るぎない民意が表明されたにも関わらず、安倍政権は、日米同盟の順守を掲げ、アメリカの軍事戦略に従い、また最低限の民主的手続き、法律すら無視あるいはねじ曲げて工事を進めている。

現在、工区北側のK9護岸が一〇〇mまで造成され（防衛局は仮設工事と言っているが）、辺野古浜側のN5、K1護岸工事が着手されている。また、一月一八日には国頭村奥港から碎石が台船に積み込まれ、海上から工事区域に搬入された。二月二五日からは、辺野古により近い本部港から海上搬送が始められた。これは、キャンプシュワブ前の反対行動によって陸上からの搬入が思うようにいかないことに焦った防衛局の苦肉の策だ。やりやすい場所から着手し、既成事実を積み重ねようとしているのだ。

この狙いは、「もう後戻りが出来ない」「反対しても無駄だ」と沖縄の人々に諦めさせ、当面は本年二月四日に行われる地元の名護市長選挙で稲嶺市長を

追い落とすことだ。そして、本年一月に行われる沖縄知事選挙で翁長知事を落選させ、基地建設工事を一気に進めようとしている。

そのためには手段を選ばない。キャンプシュワブ前で三年前の七月から行われている座り込み行動に対しては機動隊が不当な拘束、逮捕を繰り返している。海上ではカヌーや船に乗っての抗議行動に対し、海上保安庁保安官による過剰警備が続いている。強引に船に乗り込みあるいはカヌーを引き回して転覆させたりと「海の安全」「海難救助」という本来の任務と全く逆の違法行為がまかり通っているのだ。

私たち辺野古実、二〇〇四年四月、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックの呼びかけにより、首都圏の諸団体が結成された。当時辺野古では、普天間基地に変わる「海上ヘリポート」基地建設のためのボーリング調査が行われようとしていた。建設に反対する沖縄の人々は、海上に設置された単管ヤグラに乗り込み、鎖で体をくくりつけるなど決死の阻止行動を展開していた。こうした現地の実情に「本土」の私たちも何かをしななければいけないという声がかかる中で活動開始だった。

海上ヘリポート案は、沖縄の人々の体を張った闘いによって断念に追い込まれたが、基地建設計画がとり止めになった訳ではなかった。私たちは活動の継続を決め、辺野古や高江のヘリパッド建設など、沖縄での基地建設反対の闘いに呼応して「ヤマト」の役割、責任として首都圏で一〇数年間活動してきた。

この間、米軍再編の中で「海上ヘリポート」計画は、辺野古の海を埋め立て、揚陸艦が接岸できる二〇五ha（東京ディズニーリゾートの二倍）の巨大な軍事基地計画に生まれ変わった。

一方で地元の名護市では「海にも陸にも基地は造らせない」を掲げた稲嶺市長、沖縄県では「あらゆる手段行使して辺野古基地を造らせない」という翁長知事が誕生した。

しかし、安倍政権によって基地建設が加速され、機動隊の暴力、海上保安庁の過剰警備などに守られた埋立て工事が強引に進められているのが現状なのだ。

こうした中で、二月に行われる名護市長選挙で稲嶺市長の三選を果たすことが急務になっている。私たちは昨年末以来、沖縄の人々が、当面する名護市長選挙に専念できるよう、一人でも多くの人が辺野古現地に駆け付け支援の活動に参加するべく「辺野古に行こう！ キャンペーン」を始めた。二月二日には集会を開催し、広く呼びかけた。メンバーが交代で現地に向き、参加者をフォローするとともに、現地への行き方や滞在の方法などの情報提供も行っている。ささやかだが資金的な援助もしようと考えている。

辺野古へはすでに「本土」から多くの仲間が何度も支援に行っているが、まだまだ人員が足りないのが実情だ。私たちの取組みはまだ成果を上げるに至っていない。ぜひとも多くの皆さんが、沖縄・辺野古の状況を踏まえ、私たちの趣旨に賛同して辺野古の座り込みあるいは海上行動に参加されることを呼びかけたい。

（辺野古への基地建設を許さない実行委員会 連絡先 090-3910-4140、フェイスブック、ツイッターもあり）



巳年キリン『働く、働かない、働けば』、〈2018 BROKEN JAPAN〉を思い知るために

たけもりまき（フリーターユニオン福岡）

二〇一七年大晦日、私の生まれ育った北九州市の八幡で、二七年の営業を続けたスペースワールドというテーマパークが閉園し、惜しむ声が大きく報じられたりもした。風景は様変わりしたが、私の記憶は一九〇一年に操業開始した近代資本主義を象徴する官営八幡製鉄所のまま、その溶鉱炉の火が消え現れたのがスペースワールド、次はイオン系の商業施設となるらしい。そういった日常で繰り広げられる資本制社会の浮き沈みは、ちっぽけな一人の人間、労働者をどこまでも惑わせる。社会が壊れていることに気付かせる情報は溢れているが、多くの人はそれを見ようとはしないし、壊された当事者自身こそが向き合えない。この本は、そんなちっぽけな一人の労働者の声を通じて、その「悪い」に気づかせ、「壊れ」に立ち止まらせる。

幻の高度経済成長に浸かってきた私が、「反資本主義」を掲げ、「働かないぞ！」をキャッチフレーズに結成した労働生存組合フリーターユニオン福岡だが、ここに集う面々はこの本の登場人物そのまんまだ。そんな彼らと七、八年ほど前、反資本主義では最前線だろうと小倉利丸の『抵抗の主体とその思想』（インパクト出版会）の読書会をしたが、ほぼ皆きょとんとしたまま終了したことだけを覚えている（笑）。その後、ブローケンジャパンは止まる所を知らず、大学を出ても、三〇歳を過ぎても、正社員なんて働き方は夢のまた夢、日雇いに近い派遣労働で日々拘束され、時給八〇〇円前後の低賃金、将来の保証もない不安定な働き方のまま右往左往するものばかり。そんな日本を

外側から見たのがブレイディみかこの『THIS IS JAPAN 英国保育士が見た日本』（太田出版）であり、この本は内側から見たものだ。これを読んでブレイディみかこなら、なんで日本人は「NO FUTURE!」と叫んでパンクしないんだというかもしれないが。

しかし巳年キリンのこの本は、『ここにいていいよ』ってハッキリ言ってもらえないと辛くなってしまう人にはむかないよ』とか、「お金もらえても一度きりの人生を消費されてるかんじには、辛抱できないことがあるよ』というつぶやくような言葉が、右往左往して働くものたちの胸にじわっと沁みる。「ああ、どこまで賃労働に支配され尽くした会話なんだ」と一蹴することは簡単だ。しかし、これがこの国のまだ良心というものを備えた労働者の本音なんだということに立ち戻るしかないということを、思い知らされる。賃労働は、労使の契約事項であって、一日八時間以下で、労働に見合った賃金さえもらえば、事足りるはずだという当たり前のことが実行されないまま、資本主義は破綻しつつある。そのことに気付き、立ち返るための労働組合であり、労働運動だと叫びたいけど、何かがもう手遅れになっていることに気付かせる本だ。

労働者が、企業の歯車なんて前近代のことだろうと思っている人たちへ、これが二〇一八年日本の労働者の大半の現実であることを知らない人たちへ、そして、日本は民主主義社会だよ、個人は尊重されるんだよ、さらには、日本人は偉いんだ

よと教えられたものたちへである。ここに描かれた世界がごく稀な一部の「働く人」を描いているとしか思えない日本人がそこにいる限り、この国は、この社会は壊れ続ける。だから、この本をベストセラー化すべく広め、さらには無償でも、国定教科書にでもして、これから生き延びねばならないものたちに、「強制的」に読ませるべきである。近代市民社会の行く末が、タイトルのとおり「働く、働かない、働けば」と「働くこと」に支配され、増殖し続けているからだ。

最後にこの本は、私らが求めるべくは、金が無くても豊かに生きる術であり、経済的貧困であっても人間が壊れない社会であることを、教えてくれる。そのために「生活保護だって受給できるんだよ、ぎりぎりこの国はねっ」と、福祉国家であることも忘れない。労働組合運動の活動家としては、「労働者よ、企業と立ち向かい、闘え」と言いたいところだけれど、二時間程度の時給賃金と一日の休憩時間さえあれば読めるマンガ仕立てのこの本を手にとつて欲しい。その程度のゆとりも豊かさもないのは社会が悪いのであって「あなた」の責任ではない、がしかし、それを手に取るのは「あなた」自身でしかないのだから。

＊註 ここで「働く」とは「賃労働」を指すことは言うまでも無い。

（三一書房、二〇一七年、一三〇〇円＋税）

みたび

太田昌国の夢は夜ひらく92

願わくば子供は愚鈍に生まれかし。さすれば宰相の誉を得ん



今年(明治維新(一八六八年)から一五〇年に当たる年なので、政府や地方自治体がそれを記念する行事を企画し始めているようだ。年頭の新聞各紙でも、その種の記事が目立った。ただし、この言い出しっ屁が現首相であると私が知ったのは、年頭一月六日付け毎日新聞掲載の編集委員・伊藤智永のコラム「時の在りか」によってである。

戦後七〇年に当たる二〇一五年に山口県に里帰した首相は、明治五〇周年(一九一八年)は長州軍閥を代表する寺内正毅、同一〇〇周年(一九六八年)は叔父の佐藤栄作が首相だったと紹介したうえで、「私は県出身八人目の首相。頑張って平成三〇年までいけば、明治維新一五〇年も山口県の安倍晋三が首相ということになる」と語ったという。地元有権者の心をくすぐるリップサービスだったのだろうこの発言から、長期政権への野心を付度した現官房長官が国の記念行事に位置づけた、と伊藤記者は言う。

現首相は、元来、まっとうな歴史意識や歴史認識の持ち主であることを期待しようもない人物ではあるが(首相の在り方として、ほんとにこれは哀しく、情けなく、恥ずべき事実として私は言っている)、彼が肯定的に例示した寺内正毅は、「元帥陸軍大将」位をはじめとしていくつもの勲章を胸中に付けた肖像写真で有名な人物である。「勲章をぶら下げた人間を見たら、「軍人の誇りとするものは、小児の玩具に似ている。なぜ軍人は酒にも

酔わずに、勲章を下げて歩かれるのであらう」と『俳儒の言葉』に記した芥川龍之介の言葉を思い起こすくらい心をもち続けていたい。それは「革命軍」や「人民軍」や「解放軍」の兵士や司令であっても、変わることはない。躊躇いもなく人びとを殺す残酷な行為の果てに、胸を勲章で埋めるのが「軍人」とりわけ「將軍」だからだ。ともかく、寺内正毅という軍人政治家の在り方を近代日本の歴史の中に位置づけておくことは、現首相の立場とは正反対の意味で、私たちにとても必要なことに違いない。

一八五二年生まれ(ペリー艦隊「来襲」の前年である)の寺内は、明治維新の年(一八六八年)に御盾隊隊士として戊辰戦争に従軍し、箱館五稜郭まで転戦したことで、軍人としての生涯を始めている。わずか一六歳であったことに注目したい。その後の西南戦争でも、とりわけ田原坂の戦いで負傷して右手の自由を失うわけだから、いわば明治維新前後の政治的・社会的激動の中で生きたという背景がくつきりと刻印されている人物である。その負傷によって以後実戦の場を離れたとはいえ、日清戦争では兵站の最高責任者である運輸通信長官を、日露戦争時には陸相を務めていた事実(に当たれば、いかにも「坂の上の雲」を目指して明治期前半の時代を生きた典型的な人物と知れよう。だが、その天を目指す群像を肯定的に描いた司馬遼太郎ですが、寺内は自らの無能さを押し隠すように愚にもつかぬ形式主義に陥り、軍規にやか

ましく、偏執的なまでに些事に拘泥して部下を叱責した人物として描いている。その寺内が、一九一〇年の「韓国併合」と共に陸相兼任のまま初代朝鮮総督となり、一般歴史書でも「武断政治」と称されるような苛烈な朝鮮統治の方法を編み出し、あまつさえ一九一六年には首相にまで「上りつめた」のである。

中国北宋代の政治家、詩人にして書家・蘇東坡の、有名な一句を思い出す。

「願わくば子供は愚鈍に生まれかし。さすれば宰相の誉を得ん」

日本国の現首相は言うに及ばず、世界中の現役宰相を眺めて思うに、「政治」「政治家」の本質は、やんぬるかな、古今(一世紀も、二世紀も)東西を貫いて、この一語に尽きるのかもしれない。

さて、寺内に戻る。彼は「韓国併合」の「祝宴」で次のように詠った。

「小早川 加藤 小西が世にあらば 今宵の月をいかに見らむ」

固有名詞の三人はいずれも、一六世紀末、秀吉の朝鮮出兵に参画し「武勲」を挙げた武将たちである。「歴史の評価は歴史家に委ねる」と公言する現首相が、心底に秘めている歴史観に共通する心情が謳われていることは自明のことと言えよう。

かくして、今年一年を通じて、明治維新一五〇周年の解釈をめぐる歴史論争が展開されよう。ここ数年来、産経新聞はこの種の論争に敢えて「歴史戦」と名づけたキャンペーンを繰り広げている。「諸君!」「正論」などの右翼誌には一九八〇年代後半以降とみに劣化した言論が載るようになったが、三〇年近くを経てみれば、その水準の言論が社会全体を覆い尽くすようになった。偽り、ごまかし、居直りに満ちたこの種の言論の浸透力を侮った報いを、私たちはいま引き受けている。「愚鈍な」宰相の言葉として、甘く見るわけにはいかない。

(二月七日記)

マシ
がけの
天皇制 19

「皇位の安定継承」が前提!?

「壊憲天皇明仁」その17

天野 恵一



「このたび、再来年四月末日に期日が決定した私の譲位については、これまで多くの人々がおのおのの立場で考え、努力してきてくれたことを、心から感謝しています。残された日々、象徴としての務めを果たしながら、次の時代への継承に向けた準備を、関係する人々と共に行っていきたいと思っています」。

一月二三日、誕生日記者会見で公表された天皇の「お言葉」なるものの、結びのくだりである。皇位の安定的「継承」自体に反対の声を発し続けている私たちは、今年のこの日も、「天皇制の戦争・戦後責任を考える討論集会」を持った。今年のテーマは「生前退位」!?!なにやつテンノー!?!である(私は問題提起者の一人)。

この間「安倍改憲」に反対する運動の中をすら支配する天皇制批判の沈黙(それどころか「平和アキヒト・ミチコ」天皇制の賛美の声の公然たる露出)という状況に、私たち反天皇制運動は、どういふ言葉を発して、私たち自身の「反安倍改憲運動」をつくりだしていくか、それを討論する。そういう問題意識でこの集まりは準備された。ここでは、この集会資料には収めたが、集会の中では素材として触れられることのなかった一つの主張について問題にしていきたい。それは「朝日新聞」に連載されている「平成と天皇」のシリーズ

ズ「政治との距離を開く」の回、一月一六日の「下」である「公的行為 国会の議論で統制を」の見出しのついた憲法学者渡辺治の主張である。渡辺の「生前退位」問題をめぐるスタンスは、すでに「平成の天皇制とは何か」(吉田裕ほか編・岩波書店・二〇一七)に収められた「近年の天皇制議論の歪みと皇室典範の再検討」に表明されている。

「憲法施行後すんだ天皇と憲法の民主主義、人権原則との矛盾の拡大を逆転し、改めて憲法の象徴天皇制とそれに対応した皇室制度へ向けての改革を進めねばならない。象徴天皇制の方では肥大化した『公的行為』、皇族の『公務』の見直し削減が第一歩となる。明仁天皇が『全身全霊』をもって取り組んだ、被災地訪問も慰霊の旅も『公的行為』としてはやめるべきだ。日本が侵略した国と地域に首相や閣僚が国会の議をふまえて訪問し、侵略による加害を謝罪すべきである。明仁天皇は加害への正面からの謝罪はしていないし、それを行う国民の責務を代行できる資格もない。それは明仁天皇個人の思いでやることではなく、国民自身が責任を持つてなさねばならぬ課題である」。

戦後の憲法学者として、きわめて筋の通った主張であり、その限りでは、私がかく批判する

必要など、まったく感じない。新聞の方でも、こう論じている。

「私は公的行為は違憲だと考えるが、仮に認める場合は憲法に明記された国事行為以上の厳しい統制が必要だろう。公的行為の限界を定めた法律を整備したうえで、内閣による統制に加えて国会での議論を義務づけ、少数派会派を含めて合意した場合のみ認めるような仕組みを作るべきだ」

「ここまでは理解できる。しかし、次の結論のくだりは、まったく理解不能である。

「退位特例法をめぐる衆参両院正副議長のもとでの議論が参考になる」。

渡辺は、本気でこの「特例法」の国会論議をこんなふうには評価しているのか。あの天皇「特例法」翼賛国会を。この国会での政治討論を封じ込み「退位問題を政争の具にしてはならない」というタテマエで)法案をとりまとめた衆議院議長大島理森は、決まっている結論に向かって、衆参正副議長の四名の会談から始まったプロセスを、それなりに正直に「退位特例法」とりまとは大変だった」(『文藝春秋』二〇一七年八月号)で書いている。議長の根回しがすべて、国会での「皇位継承」がなぜ、どうして必要なのかという、あつて当然の論議をすべてタブーにした、挙国一致の賛成スタイルを政治演出した苦勞話である。彼はいう。「皇位の安定的継承」は真剣に考えていくべき課題であるということは、共通認識だったのです」。

こんな「認識」の土俵にくぐられ、渡辺は本当にいいのか。

野次馬日誌

12月2日〜12月29日

【12月2日】

明仁、美智子、眞子◆明仁、美智子が、東京都千代田区のJPTタワー学術文化総合ミュージアム「インターメディアテク」を訪れ、眞子の案内で植物画の特別展を鑑賞。

【12月3日】

「上皇」◆共同通信社が2、3両日に実施した全国電話世論調査によると、明仁が2019年4月に退位して「上皇」になった後も、「公務」に関与すべきか尋ねると、「限定的なら関与してもよい」が54・4%で「一切関与しない方がよい」の39・8%を上回ったと報道。

明仁退位◆2019年4月30日に決まった明仁退位の際の儀式について、政府が名称を「退位の礼」とする方向で調整していることが、政府関係者への取材で分かる。皇居・宮殿「松の間」で退位日の4月30日を軸に調整していると報道。

女性宮家◆共同通信社が2、3両日に実施した全国電話世論調査によると、皇族減少対策として、女性皇族が結婚後も皇室にとどまる女性宮家の創設について「するべきだ」との賛成意見が61・3%に上り、「必要はない」の26・0%を上回った。

【12月4日】

明仁、美智子◆東京・上野の日本学士院会館を訪れ、第33回国際生物学賞の授賞式に出席。

【12月5日】

天皇、皇族◆明仁、美智子が東京都文京区の豊島岡墓地を訪れ、昭和天皇の末弟に当たる三笠宮の墓所を参拝。

代替わり◆菅義偉・官房長官が閣議で、明仁の退位日を2019年4月30日と決めた皇室会議の内容について報告。

徳仁、雅子◆東京都千代田区の東海大校友会館を訪れ、障害者支援の功労者などの表彰式に出席。徳仁が、2020年に開催する東京五輪・パラリンピックに触れ「今後の『共生社会』の実現に向けた取り組みへの関心が高まることを期待いたします」とあいさつ。

秋篠宮、紀子、悠仁◆和歌山県を訪れ、白浜町の南方熊楠記念館を見学。

靖国参拝◆超党派の議員連盟「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」(会長・尾辻秀久・元参院副議長)が、東京・九段北の靖国神社を集団で参拝。

【12月6日】

明仁、美智子◆皇居・御所で、訪日したマダガスカルのラジャオナリマンピアニナ大統領夫妻と会見。国立新美術館(東京都港区)で開催中の日本美術展覧会(日展)を鑑賞。／東京都港区の国立新美術館で開催されている日本美術展覧会(日展)を鑑賞。文化庁長官や展示品の制作者らと懇談。／高知県が、翌年度に高知市などで開かれる「全国豊かな海づくり

大会」の日程が10月28日に決まったと発表。

代替わり◆政府が、明仁の退位を受けて徳仁が新天皇として即位する2019年5月1日を祝日か休日にする方向で検討に入った。祝日になれば、祝日法の規定により、その前後の4月30日、5月2日も休日となり4月27日からの10連休となる。

共謀罪◆立憲民主、共産、自由、社民の4党と、衆院会派「無所属の会」が、「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ「改正」組織犯罪処罰法の廃止法案を衆院に共同提出。

【12月7日】

明仁、美智子◆2014年から続いていたJR東京駅(東京都千代田区丸の内)側の改修工事が完了し、赤れんが駅舎内にあるホテルで開かれた記念式典に出席。象徴天皇制◆首相在任中、明仁の「即位の礼」に立ち会った海部俊樹・元首相が

東京都内で共同通信のインタビュに際し、2019年4月30日に退位する明仁について「戦後の民主主義の下、自身が先頭に立ち、象徴天皇制を機能させてきた」。「慰霊を行い、全国を歩くといった積み重ねがあり、国民は象徴天皇を素直に受け入れた」。徳仁が新天皇に即位する際の儀式は、時代に即した様式にすべきだと強調。1990年の即位の礼を巡り、宮内庁から皇族と同じ衣冠束帯を着るよう求められたエピソードを披露、各国の元首らが参加し、戦後の新憲法下での儀式となるだけに、日本が変わったことを示そうとえんぴつで臨んだと語り、新大

な即位の礼に關し「首相が読み上げる寿詞を『祝辞』と言った方が分かりやすい。国民との距離を縮めるべきだ。新しい時代にふさわしい儀式をみんなで考えればいい」。

皇室会議◆宮内庁が、明仁の退位日を2019年4月30日がふさわしいとの意見をまとめた皇室会議の議事概要を、8日午前9時半に同庁ホームページで公表する、と明らかに。

昭和天皇独白録◆昭和天皇が太平洋戦争などに関する出来事を戦後に回想した「昭和天皇独白録」について、側近が記録した原本とされる文書がニューヨークで競売に掛けられ、手数料と合わせ27万5千ドル(約3090万円)で落札される。主催した競売会社ボナムスによると、落札者は美容外科「高須クリニック」の高須克弥院長。

【12月8日】

天皇、皇族◆宮内庁が、新年一般参賀を翌年1月2日に皇居で実施すると発表。明仁、美智子が午前と午後の計5回、宮殿の長和殿ベランダに出て、徳仁、雅子や秋篠宮、紀子ら成年皇族が並ぶ。

明仁、美智子◆東京都新宿区にある三越伊勢丹ホールディングスの関連会社を訪れて障害者が働く様子を視察。

代替わり◆政府が閣議で、明仁の退位日を2019年4月30日と定める政令を決定。翌5月1日に徳仁が即位し改元されると正式に表明。政府が、天皇代替わりまでの期間について、儀式の準備や予算確保、人材養成などを理由に「最低でも

一年が必要」との首相の意見を記した皇室会議の議事概要を公表。菅義偉・官房長官が記者会見で、議事概要とは別の個々の発言内容が記された議事録をつくらないのかとの質問に「他の記録は作成していない」。

徳仁即位◆徳仁が新天皇に即位する2019年5月1日は、労働者の祭典「メーデー」に当たるため、当日は皇居周辺の混雑や警備強化も予想され、三つのナショナルセンター（労働組合の全国中央組織）のうち、これまで5月1日に式典を開いてきた全労連などは例年通りに開催する考えだが、会場使用の制限などの要請があるかもしれないと懸念も示していると報道。

皇室会議◆宮内庁が、政府が明仁の退位日を2019年4月30日と決める際に意見を聴いた皇室会議の議事概要を、同庁ホームページで公表。「4月30日とすべきだ」とした皇室会議の意見は、議長の安倍晋三首相の案通りに決定されていたことが明らかに。議員から「1月7日の在位満30年の節目を（現天皇のまま）お迎えいただきたい」などの意見が出され、首相が代替わりまでの期間について、儀式の準備や予算確保、人材養成などを理由に「最低でも1年が必要」との意見を表明したことが判明。

強制労働◆政府が、世界文化遺産の端島（通称・軍艦島、長崎市）の炭鉱で戦時徴用された朝鮮半島出身者に関し、過酷な強制労働の実態はなかったとする元島民の証言を公開する方向で検討に入り、

2019年までに世界遺産の紹介施設を東京都内に開設し、展示したい考え。

【12月9日】

天皇、皇族◆雅子が54歳の誕生日を迎え、明仁、美智子にあいさつをするため、皇居・御所を訪問。半蔵門から入る。これに先立ち、東京・元赤坂にある東宮御所で、秋篠宮、紀子ら皇族から祝いの言葉を受ける。夜、明仁、美智子が、東京・元赤坂にある東宮御所を訪れ、誕生日を祝う食事に参加。秋篠宮、紀子が加わる。

明仁、美智子◆宮内庁関係者によると、一般公開されている皇居・乾通りを宮内庁庁舎内から眺めたという報道。

雅子◆誕生日を迎え、宮内庁東宮職を通じて発表した文書による感想で、明仁の退位日が決定したことに触れ「これから先のことを考えると、身の引き締まる思いがする」と述べたと報道。治療に当たる東宮職医師団が「着実に回復し、一步一步活動の幅を広げている」との見解を公表。

【12月10日】

徳仁、雅子、愛子◆徳仁が、東京・目白の学習院創立百周年記念会館で開かれた学習院OB管弦楽団の定期演奏会に出演し、ピアノを演奏。雅子が2階席で、愛子が1階の客席で友人と並んで鑑賞。

皇居・乾通り◆2日から始まった皇居・乾通りの一般公開が終了。9日間で計約22万6千人が訪れたと報道。

【12月11日】

象徴天皇◆神戸女学院大の河西秀哉・准教授（日本近現代史）が、大阪市内で開

かれた関西プレスクラブの会合で象徴天皇制とメディアの関係をテーマに講演し、「国民」が象徴天皇の在り方を改めて考える必要があると主張。被災地の訪問や戦没者の慰霊など明仁が象徴天皇の在り方を自ら模索し、それが報道によって定着していったとして「天皇、皇后両陛下の負担が今後増え過ぎる可能性がある」。

【12月12日】

明仁退位◆政府が閣議で、明仁の退位日を2019年4月30日と決めた1日の皇室会議を巡り、議員ではないのに菅義偉・官房長官が出席した理由について「退位特例法の施行に関する事務をつかさどる内閣官房の事務を統括する者として、内容を説明するため」とする答弁書を決定。官房長官が皇室会議に出席した事例はこれまでなかったとした。

【12月13日】

代替わり◆政府が、明仁の退位日を「2019年4月30日」と定める政令を公布。官報に掲載される。退位翌日の5月1日に徳仁が新天皇に即位し、改元となると報道。

在沖米軍事故◆沖縄県宜野湾市の市立普天間第二小学校の運動場に、上空から約1メートル四方の金属製の窓枠が落下。

【12月14日】

天皇、皇族◆宮内庁職員らが制作した、書道や絵画などの作品を展示する職員組合文化祭が庁舎内で始まる。明仁、美智子や皇太子一家、秋篠宮一家ら皇族が出品したと報道。

明仁退位◆宮内庁の山本信一郎長官が定

例記者会見で、政府が検討している明仁の退位の儀式について「陛下はできるだけ簡素になさりたいとお考えを持っている」。外国賓客を招待せず、一般参賀やパレードを行う意向もないという報道。

週刊新潮12月14日号の記事に「陛下が華やいだ雰囲気では皇居を去りたいお気持ちを持っている」と掲載されたことを受け、退位の儀式に言及し、週刊新潮に抗議文を送ったとした上で「国民に大きな誤解を与えることになるので、事実関係を明らかにした」。週刊新潮編集部が、インターネット上の「デイリー新潮」に掲載した記事の中で、12月14日号の内容について「真実であると確信しています」とする見解を示す。

美智子◆東京都新宿区の東京オペラシテイコンサートホールを訪れ、東日本大震災で被災した地域の復興を支援するチャリティコンサートを鑑賞。

歴史認識◆訪中した韓国文在寅・大統領が南京大虐殺などの歴史問題を積極的に取り上げていることについて、中国外務省の陸慷・報道局長が記者会見で「（中韓）両国人民は日本による侵略への抵抗と民族解放闘争で団結し、互いに助け合った」。

【12月15日】

講演◆安倍晋三首相が、東京・東新橋の共同通信社で小淵敏郎・政治部長の出席を受け、共同通信加盟社編集局長会議に出席し講演。

【12月18日】

明仁退位◆明仁の退位儀式を巡り、憲法

上の国事行為とする案が政府内で浮上していることが分かる。過去の儀式例を参考にしつつ、天皇の政治関与を禁じる憲法に抵触しない形で、退位日の2019年4月30日に皇居・宮殿で実施する方向。

代替わり◆宮内庁が、明仁の退位後、明仁、美智子と皇太子一家が住まいを交換すると正式に発表。明仁、美智子が先に皇居・御所を離れ、バリアフリー化などの工事の間、東京都港区の高輪皇族邸（旧高松宮邸）に仮住まいし、東宮御所（東京・元赤坂）は、2人が上皇、上皇后となつて移り住んだ後は、先例に倣い「仙洞御所」と呼ぶと報道。

【12月20日】代替わり◆政府が、明仁の退位後、秋篠宮を皇位継承順1位の「皇嗣」であるとして、国内外に示す儀式を皇居・宮殿で行う方向で検討していることが、政府関係者への取材で分かる。名称を「立皇嗣の礼」とする案が浮上しており、立太子の礼が、現行憲法下で行われた過去2回、事前の閣議決定を経て、国事行為として実施されたとして、立皇嗣の礼も国事行為となる見通しと報道。

【12月21日】明仁、徳仁◆明仁が、安倍晋三首相と閣僚、副大臣らを皇居・宮殿に招き、小食堂「連翠」で昼食会を開く。徳仁が同席。冒頭で、安倍首相が招待されたことへの礼を述べ、明仁「国民のために日夜、国務に精励されてきたことを誠にご苦労に思います」。代替わり◆菅義偉・官房長官が記者会見で、明仁の退位を受けて12月23日の天皇

誕生日が平日となることに関し「皇位継承後、新たな国民の祝日にするかは国民各層の幅広い議論が必要だ」。

宮中昼食会◆安倍晋三首相が、皇居で行われた宮中昼食会に出席。

【12月22日】

美智子◆板橋区立美術館（東京都）で開催中の絵本の展覧会「世界を変える美しい本 インド・タラブックスの挑戦」を鑑賞。

皇室予算◆明仁の退位と新天皇の即位に向けた準備を本格化させるため35億円を盛り込んだと報道。このうち皇居に暮らす明仁と、赤坂御用地に住む徳仁が住まいを交換する際に必要な改修費に17億円を計上するとともに、儀式的準備で、「即位の礼」で使う高御座を京都御所から東京に移し、修理をする費用や、装束を新調する経費で16億円を盛り込む。新天皇や、代替わり後に皇位継承順1位の「皇嗣」となる秋篠宮を支える組織を強化するため、側近など宮内庁職員を17人増員。ほかに、眞子が翌年11月に結婚し、皇室を離れる際に支払われる一時金に充てるためとして、1億5千万円が計上される。

靖国参拝訴訟◆安倍晋三首相が2013年に靖国神社を参拝したのは、政教分離を定めた憲法に反するとして、戦没者遺族らが国と安倍首相、靖国神社に1人1万円の損害賠償などを求めた訴訟で、最高裁第2小法廷（山本庸幸・裁判長）が20日付で、原告側の上告を退ける決定をし、原告側の敗訴が確定したと報道。

日米関係◆ティラーソン米國務長官が、

23日の天皇誕生日を前に祝意を表す声明を発表し、今後も日本と協力を続け「強固な同盟関係をさらに強化したい」。

【12月23日】

天皇、皇族◆明仁の誕生日に伴う一般参賀が皇居で行われ、明仁があいさつで「寒さに向かう今日、台風や豪雨により被害を受けた地域の人々、また、東日本震災など過去の災害により、いまだ不自由な生活を送っている人々のことを深く案じている」。明仁が美智子と徳仁、雅子、秋篠宮、紀子、眞子と共に宮殿・長和殿のベランダに並ぶ。宮殿や住まいの御所で祝賀行事が続き、午前は徳仁、雅子ら皇族や宮内庁幹部が明仁と美智子にそれぞれ祝いを述べ、午後には安倍晋三首相ら三権の長による祝賀、皇族や首相、国会議員らが出席する祝宴、各国の駐日大使らを招いての茶会などが催される。夕方、愛子と悠仁が祝いを伝えるため御所を訪問。夜、徳仁、雅子と秋篠宮、紀子、黒田清子夫妻が御所に集まり、共に夕食。

宮内庁舎前での記帳も合わせ、「平成」に入って最多の5万2300人が一般参賀に訪れたと報道。

明仁◆84歳の誕生日。これに先立ち皇居・宮殿で行われた記者会見で、退位日が2019年4月30日に決まったことを受け「残された日々、象徴としての務めを果たしながら、次の時代への継承に向けた準備を関係する人々と共に進めていきたい」と語った内容が公表される。

天皇誕生日◆安倍晋三首相が妻と共に、皇居で行われた天皇誕生日祝賀の儀、宴

会の儀に出席。

G20◆日本で2019年に初開催される予定の20カ国・地域（G20）首脳会合について、政府内で大阪市が有力視されていることが分かる。19年は明仁の退位のほか、統一地方選などが実施されることを踏まえ、同年6〜11月で調整するとみられると報道。

原発事故避難者◆新潟県が東京電力福島第1原発事故による健康や生活への影響を調べる検証委員会の分科会が新潟市で開かれ「毎月平均の世帯収入が10万5千円減少した」などとする、原発事故避難者へのアンケートの中間報告が示される。

【12月25日】

明仁、美智子◆訪日しているタイのチュラボン王女を皇居・御所に招き、共に昼食。

徳仁即位◆政府が、明仁の退位後に徳仁が新天皇に即位する2019年5月1日の祝日、休日化に関し、その年1回限りの措置とする特別法を制定する検討に入った。

代替わり◆宮内庁の西村泰彦次長が定例記者会見で、代替わり後の新しい宮内庁の体制について、退位後に上皇、上皇后となる明仁、美智子を支える「上皇職」を、60人台半ばの規模で発足させたい考えであることを明らかに。新天皇と徳仁一家を担当する新しい侍従職は、侍医や看護師などの医療体制を縮小しても問題ないと判断し、70人台半ばの規模とするほか、「皇嗣」となる秋篠宮一家の担当は現在の東宮職と同規模の50人程度にして「皇嗣職」を新設する見込みで、宮内庁全体で

40人程度の増員が必要になる。

【12月26日】

代替わり◆政府が、明仁の退位や新天皇の即位に伴う儀式の在り方などを検討する準備組織の初会合を翌年1月上旬にも

開く方向で調整に入り、天皇の政治関与を禁じる憲法に抵触しない形で調整を進めると、政府関係者が明らかに。

【12月29日】

代替わり◆政府が明仁の退位を巡り、明

美空の「歌」

辺野古に行こう 新基地建設阻止—名護市長選勝利をめざして
名護市長選勝利をめざして

.....

名護市長選挙が二〇一八年二月四日に行なわれる。辺野古への基地建設を許さない実行委員会では、今後の闘いを大きく左右する名護市長選挙に何ができると考えた時に、地元の沖縄の皆さんが選挙に専念できるように、首都圏からゲート前の座り込みに参加するよう呼びかけることになり、この集会を準備した。

集会では、まず初めに辺野古への基地建設を許さない実行委員会の中村利也さんが主催者挨拶、メインゲストとして沖縄平和運動センター事務局長の大城悟さんが、辺野古を取り巻く情勢を網羅的に報告し支援を訴えた。

大城悟さんは、「今日は第一土曜の集中行動日で、ゲート前に千人が集まった」とダンブ搬入を阻止した現場の闘いの様子を語り、石材の海上輸送に対しては「県

知事への揺さぶりだ」と敵の狙いを明らかにし、奥港の使用を許可したとか埋め立て承認の撤回をまだしていないこと、運動内部から翁長知事への批判的な意見が出ていることに対しては「だからといって翁長知事はダメ、ということにはならない。県は行政の立場で、現場は現場で島ぐるみで基地建設を止めることに変わりはない」と揺るぎない確信の下に闘いを進めることを明言し、最後に「市長選にただ勝つだけでなく、圧勝したい。ともに安倍を打ち倒そう」と力強く決意を明らかにした。

沖縄からの訴えを受けて沖縄派遣カンパなどを呼びかけた後、地域と課題から連帯挨拶が行われた。

地域からは、沖縄と東京北部を結ぶ集い実行委員会、沖縄の闘いと連帯する東京東部集い実行委員会、地域共闘交流会、辺野古に基地はいらないin三鷹、日野市の今と未来を考える会、島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会が発言。課題からは、沖縄への偏見をおおる放送を許さない市民有志、監視庁機動隊の沖縄への派遣中止を求める住民監査請求実行委員会、宮古島ミサイル配備反対運動をしている方が発言。

仁が首相、衆参両院議長、最高裁長官の「三権の長」と会い、退位を告げる儀式を退位日の2019年4月30日か、その数日前に実施する方向で検討に入ったと報道。明仁が皇位継承の証しとして、三

最後に主催者が具体的に辺野古へ行く日時と方法など行動提起した。参加者は一五〇人だった。

（辺野古への基地建設を許さない実行委員会）

ナショナルイベントとしての東京五輪

.....

一月一六日国立の一橋大学キャンパスにておことわりリンク第五回の講座を行った。この連続講座の第一期はオリンピックの持つ問題性を様々な角度から検討していくという企画。今回の講座はオリンピックの持つナショナルリズムに焦点を当てたものだ。

トップバッターは「天皇制とオリンピック」と題して反天連の天野恵一さん。冒頭、和田春樹さんが「市民の意見30の会ニュース」に書かれた論文の最後の部分の「オリンピックの『平和』で『戦争』を止める」という構図への違和感から話は始まった。反監視運動でさえ、「オリンピックを利用した監視の強化」というとらえ方でオリンピックそのものをニュートラルなものとする構図が基底に潜んでいると私は感じていた。

天野さんは一九三六年のナチ・ベルリ

種の神器のうち剣や璽（勾玉）を新天皇に引き継ぐ儀式を4月30日に行う運びで、いずれも憲法上の国事行為とすると、政府関係者が明らかに。

ンオリンピックが現代オリンピックのスタイルを創出したことを指摘しつつ、六四年東京オリンピックはナチと違い、高度成長（開発）五輪であり、ソフトなナショナルリズムへの転換を図っている。しかしそれは「日の丸・君が代・象徴天皇」の「戦争」から「平和」へのイメージ転換であり、「敗戦の大量の死者」露出した戦争を「平和」で包みかえる政治的イベントであることを指摘した。

続いて鶴飼哲さんは「オリンピック／多様性／ナショナルリズム」と題して安倍の「アンダー・コントロール」宣言という大嘘の持つ政治的意味からスタート。二〇二〇年東京五輪は、「復興五輪」として福島原発隠蔽工作を敢行する徹底した政治イベントであることを指摘した。さらにその復興五輪は改憲五輪へとつながっているのだ。続いては「人権五輪」という表看板に隠された人権侵害の拡大について様々な角度から問題提起がなされた。特に私は第三回の北村小夜さんのお話にも通じるパラリンピックと「復興」のイデオロギー的同型性を重要視した。災害多発国・日本と「がんばる障がい者」の同一化はパラリンピックについても政治的イベントとして位置づけられていく

ことになることに私たちは鈍感であつてはならないと感じた。

お二人のお話がうまくクロスする形でとても奥深い講座になったと思う。参加者は四〇名。

(宮崎俊郎／オリピック災害おことわりンク)

アキヒト退位とナルヒト即位を 考える練馬集会

.....

「アキヒト退位・ナルヒト即位問題を考える練馬の会」の集会が、一二月二三日、千本秀樹さんを講師として開催された。

千本さんは「象徴天皇制、何が問題か」と題して問題提起。明仁天皇は、一六年夏のビデオメッセージにおいて、「国民」の情動に直接に働きかけることで、自身の退位と時代の天皇の即位に向けた流れを、憲法や皇室典範の枠組みを踏み越えてつくりだした。こうした行為が可能だったのは、「象徴天皇制」として再構築された天皇の権威・権力が、あらためて価値づけされ、行使されてきたことにある。

そしてそれは、天皇の「護憲」発言や、死者の「慰霊」「追悼」をかつての戦場や大災害の被災地をめぐる行い、その姿を報道させることによって、より強固なものとしてきた。いまやそれは「最強の象徴天皇制」とも言いえるほどで、虚言と強権の政治を次々に繰り出す安倍政権よりも強い「統合力」を発揮し、政権批判の立場をとる人々の「支持」すらもとりつける。しかし、重視せねばならな

いのは、天皇制の「統合力」がまさに政権を補完することによってこそ拡大しているということだ。

「代替わり」の国家イベントに「国民」意識が組み込まれていきながら、政治システムも軍隊・警察も、所有も、社会の中での人間の関係、差別構造も、指一本触れられることなく残され、国家権力が恣意的に行使されていく。この国家的なイベントの中で、あらためて自らの人権を確立させ、対抗していくことがほんとうに大切なことであるということが、講演では、さまざまな方向から論じられた。なお、この日の講演の資料として配布されたのは、「現代の理論」<http://gendanonline.jp/> 第10号(一六年一月)と第11号(一七年二月)所収の千本さんの論文なので、内容については参照を。

参加者は三〇数名。前号の「ネットワーク」欄で池田五律さんが紹介してくれたように、今後、この会は「準備会」としてではなく、正式に発足する。ともに進んでいこう。(編蝠)

「生前退位!?」なにやっテンノー

.....

天皇制の戦争・戦後責任を問う、反天連の恒例の討論集会。千駄ヶ谷区民会館にて約九〇名が参加した。天皇「代替わり」に向かうこの間の言論状況において、安倍の「戦争政策」と天皇の「平和主義」を対立させ、後者に期待するという言説が「リベラル」の中から大量に生み出されている。そんな中、天皇の「平和主義」

の欺瞞を批判することの重要性を確認しつつも、それだけでは不十分ではないかという問題意識から、集会がつけられた。発題者は、反天連の北野誉さん、桜井大子さん、天野恵一さん、そして批評家の平井玄さんの四人。

まず、北野さんは、オーウェルがディストピアを描いた『一九八四年』の「二重思考」や「新語法」が、実は最近の言論状況にとても当てはまるのではないかと、「二重思考」を強いる装置として天皇制が機能しており、それへの批判は、天皇の「平和主義」の内在的な批判となさねば、と提起した。桜井さんは、「良

い治世者」像を求める民衆意識や欲望が、今の天皇に投影されているのではないかと。憲法逸脱の度合いは大きくなるばかりでありながら、それを飲み込んでしまう象徴天皇制が持つ曖昧さがつくり出す強さを再認識すべきではないかと語った。天野さんは、天皇が「退位」しても人間になるわけではなく、特権的地位は変わらない事実から、天皇は戦後もずっと現人神と人間の二つの観念を生きていることの欺瞞と偽善をこそ問題にすべき、と論じた。平井さんは、安倍の経済政策は行きづまり、「国家破たん」が先送りされている中、「曖昧な貧乏」として貧困化が進んでいることの現実を凝視する必要がある。資本主義の変容と収縮過程に天皇制がどう適応していくのか見定めつつも、貧困や非正規問題の中から聞い

民主主義もリベリズムも何でも入れることができる「国体論」のような使われ方をしているが、その使う側の問題や、天皇・皇后の方が貧困問題には自覚的で、逆に当事者たちが曖昧な気分のまま無自覚であることの問題などが指摘された。(川合)

「実質改憲」を許すな!? 天皇の、天皇による、天皇のための代替わり反対!

.....

一二月二四日、一日遅れの「天皇誕生」を考える」集会在静岡市内で行われた。講師の桜井大子さん(反天連)が「(代替わり)をめぐる、憲法・民主主義の問題」についてお話しくださり、以後質疑・討論をおこなった。浜松平和芸人クラブの竹内さんがギターを抱えて駆けつけ、中川五郎の『一台の自転車が生立ち向かう』(反天バージョン)の弾き語りで集会に華を添えてくれた。以下は、桜井さんの講演のあらましである。

人々はどういうに天皇を認識してゆくのか。巷にあふれる天皇に関する情報は、たとえば皇室外交のワンシーン、慰霊・追悼、慰問、視察、園遊会……。これらのおふるまいは実は憲法に定められた「天皇の行為」にはないものばかりであるが、そうした批判は取り上げられず、封殺される。マスメディアがつくり出す一面的な天皇像が繰り返し流布される。

憲法に定められた行為だけでは露出度が低く権威を保てないとの認識から「公

的行為」を増やしつづけ、手放してはならないと考えているのではないか。最高権威者だからこそ人々は天皇の「公的行為」を欲し、その「公的行為」によって権威はさらに増幅してゆく。

今回の「生前退位」意向表明から「特例法」制定に至る過程は何もかもが異常で問題だったが、天皇がこの違憲の「公的行為」を「象徴的行為」として国民の理解（合憲解釈）を求め、国民もリベラルも議会も政府もマスコミも最終的に天皇の意向を付度する形で立法化を承認し、実質改憲に加担したところに最大の問題があるといえる。

「天皇の、天皇による、天皇のための代替わり」が、社会全体で容認されてしまっただが、私たちは天皇制そのものが違憲の制度であるという視点を失わず、憲法の三原則を手放すことなく、議論と行動を続けてゆきたい。

反代替わりの取り組みは各地で始まっている。

（山河進／天皇制を考える会・静岡）

はん天日誌

12月15日（金）●原発被ばく労災損害賠償裁判第5回口頭弁論

12月16日（土）●オリンピック災害おこつてリンク連続講座第5回・ナショナルイベントと東京五輪（集会の真相参照）

12月22日（金）●アキヒト退位・ナルヒト即位問題を考える集い

12月23日（土）●「生前退位!?」なにやっ

テンノー 12・23に天皇制の戦争・戦後

責任を考える討論集会（集会の真相参照）

12月24日（日）●「実質改憲」をゆるさない!! 天皇の、天皇による、天皇のための代替わり反対!（集会の真相参照）

13時30分／静岡県男女共同参画センターあざれあ（JR静岡駅）／桜井大子／主催・戦後72年連続講座実行委員会（054-271-7302 県共闘）（集会の真相参照）

開催中／7月末予定●日本人「慰安婦」の沈黙

13時～18時（月・火・休日休館）／WAM・女たちの戦争と平和資料館（地下鉄早稲田駅ほか）／連絡先・同館（03-3302-4633）

1月14日（日）●「平成」代替わりの政治を問う・連続講座第3回 反「昭和」Xデー闘争の（経験）を通して、「平成」代替わりを考える

13時30分開場／ピープルズ・プラン研究所（地下鉄江戸川橋駅ほか）／国富建治・池田五律・北野蒼・天野恵一／主催・ピープルズ・プラン研究所（03-6245748）

1月15日（月）●2018年の反戦運動を展望する東京北部討論集会

18時／豊島勤労福祉会館（JRほか池袋駅）／池田五律・石橋新一・中川信明・加藤誠／主催・有事立法・治安弾圧を許すな! 北部集会実行委員会（03-3361-0212 北部労働者法律セン

ター）

1月21日（日）●高岩仁監督作品上映会「教えられなかった戦争 中国編」

13時5分開場／東京ウイメンズプラザ・ホール（地下鉄表参道駅ほか）／上映後、山邊悠喜子さんのお話／主催・教えられなかった戦争製作上映実行委員会（03-5974-1333）

1月24日（水）●警視庁機動隊沖縄派遣は違法 住民訴訟第5回口頭弁論

11時30分／（10時30分よりアピール行動）／東京地方裁判所（地下鉄霞ヶ関駅ほか）

1月27日（土）●沖縄報道を問う

17時45分開場／文京区民センター2A／白石草・安田浩一・泰真実／主催・沖縄への偏見をおおる放送を許さない市民有志（nonewsiyoshi@gmail.com）

2月3日（土）●「日の丸・君が代」の強制をはね返す2・3神奈川集会とデモ

13時30分／横浜開港記念会館9号室（JR関内駅ほか）／堀江有里／主催・「日の丸・君が代」の法制化と強制に反対する神奈川の会（090-3309-9657）

2月10日（土）●リュウセイオー龍 SoDance 僕らの花／未来都市

18時30分開場／プラン・B（地下鉄中野富士見町駅）／リュウセイオー龍／問い合わせ：（080-5375-2058 龍之陣）

2月11日（日）●2・11反「紀元節」行動

明治150年Ⅱ近代天皇制を問う

13時30分／全水道会館4F大会議室（JRほか水道橋駅）／太田昌国／主催・「代替わり」と近代天皇制150

年を問う! 反「紀元節」2・11行動（090-3338-0933）

2月22日（木）●原発被ばく労災損害賠償裁判第6回口頭弁論

14時／（13時よりアピール行動）／東京地方裁判所（地下鉄霞ヶ関駅ほか）

3月25日（日）●「平成」代替わりの政治を問う・連続講座第4回 明治150年式典・キャンペーンと「生前退位」

13時30分開場／ピープルズ・プラン研究所（地下鉄江戸川橋駅ほか）／太田昌国・伊藤晃・天野恵一／主催・ピープルズ・プラン研究所（03-6245748）

3月31日（土）●3・11と「復興五輪」

13時15分開場／文京区民センター2A／小出裕章・佐藤和良／主催・「2020オリンピック災害」おこつて連絡会（080-5652-0270）

401号完成。いつもの事ながらなんとかなるもんだ。こんな調子ですが今年もよろしく。(木菟)

●思い起こせば100号のときには記念集会をやった。でも現在は予定外の集会開催など無理だね。(蝙蝠)

●401号って凄いな。継続は力なり! 反天皇制の運動も継続しているしきつと力になるぞ。(桃色鰐)

●401号のうち、340号くらいつくったことになるぞ。340号か月。(猿)

●本日の作業、熊さんは途中退場。ナマケモノも顔出ししました。

Q……神田川

年を問う! 反「紀元節」2・11行動（090-3338-0933）

2月22日（木）●原発被ばく労災損害賠償裁判第6回口頭弁論

14時／（13時よりアピール行動）／東京地方裁判所（地下鉄霞ヶ関駅ほか）

3月25日（日）●「平成」代替わりの政治を問う・連続講座第4回 明治150年式典・キャンペーンと「生前退位」

13時30分開場／ピープルズ・プラン研究所（地下鉄江戸川橋駅ほか）／太田昌国・伊藤晃・天野恵一／主催・ピープルズ・プラン研究所（03-6245748）

3月31日（土）●3・11と「復興五輪」

13時15分開場／文京区民センター2A／小出裕章・佐藤和良／主催・「2020オリンピック災害」おこつて連絡会（080-5652-0270）

401号完成。いつもの事ながらなんとかなるもんだ。こんな調子ですが今年もよろしく。(木菟)

●思い起こせば100号のときには記念集会をやった。でも現在は予定外の集会開催など無理だね。(蝙蝠)

●401号って凄いな。継続は力なり! 反天皇制の運動も継続しているしきつと力になるぞ。(桃色鰐)

●401号のうち、340号くらいつくったことになるぞ。340号か月。(猿)

●本日の作業、熊さんは途中退場。ナマケモノも顔出ししました。